

成果指標				
成果指標	業務費と料金収入の割合を比較することで捉える。業務費÷収入額×100(%)を表示			
指標設定の考え方	業務事務費と収入額の比較を対比することで、コスト率を数値化する。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目 標	9.6	9.6	9.5	0
実 績	22.07	6.29	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	人口の減少により接続戸数の増加が見込めないため、使用料の滞納状況を把握するとともに、水道課の給水停止と連携した納付の履行や個別訪問により、徴収率の向上に努める。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	2	
課題認識	使用料については、給水停止の対策をとる事で、高い徴収率を維持しているが、滞納者が増えないよう電話督促等により早期の対応が必要である。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	使用料について、見直しを検討する。

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

下記の点を見直しの上、継続する。

意見、課題

二次評価の内容を踏まえ見直すこと。